

社会福祉法人 埼玉のぞみの園

法人だより No.14

編集発行 埼玉のぞみの園法人本部 〒369-1105 埼玉県深谷市本田3343 編集責任者 理事長 山崎 勝
発行 埼玉県障害者団体定期刊物協会 〒332-0011 埼玉県川口市元郷1-10-13

定価1部 50円

④ 障害者を衰弱させるような著しい減食又は長時間の放置、当該障害者福祉施設に入所し、その他当該障害者福祉施設を利用する他の障害者又は当該障害福祉サ



春日園 大島一哉施設長 (H27.6.22撮影)

虐待の定義

「障害者福祉施設従事者等による障害者虐待」とは、①障害者の身体に外傷が生じ、若しくは生じるおそれのある暴行を加え、又は正当な理由なく障害者の身体を拘束すること。②障害者にわいせつな行為をさせること又は障害者にわいせつな行為をさせること。③障害者に対する著しい暴言、著しく拒絶的な対応又は不当な差別的言動その他の障害者に著しい心理的外傷を与える言動を行うこと。

最近マスメディアより虐待映像が2件（山口県下関市の知的障害者施設／千葉県の医療法人）大きく報道され、各方面から様々な声が上がっていますが、「春日園において虐待はあるのか」と自問すれば、「職員の見点、観点からでは虐待はない。」と、では「今後はどうなのか」と自問すれば、「可能性はある」と。

障害者支援施設春日園における虐待を見逃さない取組み

春日園長 大島一哉

わたしの若いころ何回となく、保護者の方より「解約されては困る」というニュアンスの言葉を聞いたことがあり、「保護者の方はそんなふうを考えるのか」と思いました。その時「なんでも言ってください」と軽く話してしまっただけですが、保護者の方々の心情や当時の情勢を考えると、その言葉は本心で、切実で重い言葉だったんだと反省しています。

職員は常に利用者の人格や権利を尊重するという意識を持ち、利用者の立場に立った言動を心がける必要があると思います。不適切なケアは虐待の芽であり、その芽を摘むことにより適切なケアを防止できると考えます。そのためには不適切なケアは虐待と捉えることが大切だと思えます。

「○○ちゃん、○○君」と子ども扱いをするなど、虐待かそうでないか判断に迷うような不適切なケアが存在していないか。

グレーゾーン

利用者の視点、観点で考えた場合に、職員が意識せず行っている支援等の中で、利用者自身を傷付けたり、苦しませたり、悲しみさせてしまっていることは少ないか。虐待とは判断されないが、適切ではないケア（グレーゾーン）をしていることはないか。たとえば利用者と呼ばれた際に、「ちよっと待ってね。忙しいから後で」と答える。「○○ちゃん、○○君」と子ども扱いをするなど、虐待かそうでないか判断に迷うような不適切なケアが存在していないか。



移動式リフター
利用者の快適な移乗と支援員の腰痛軽減に効果をもたらしてくれました。



入浴用車イス他4種
お風呂の時間や訓練が「快適、便利になった」と評判です！

中小企業労働環境向上助成金
埼玉労働局様
対象事業所：深谷たんぼぼ
対象事業：介護福祉機器等助成
助成額：二五四、五〇〇円

平成26年度
赤い羽根共同募金会様
対象事業所：春日園
対象事業：入浴用機器購入
助成額：一〇〇万円

助成金をいただきました
平成27年2月5日平成27年6月

一般ご協力者様

（順不同・敬称略にて御容赦願います。）
平成27年2月5日平成27年6月
※平成27年6月30日現在
大澤 晋
渡辺 宏道

後援会 ご協力者様

（順不同・敬称略にて御容赦願います。）
平成27年2月5日平成27年6月
※平成27年6月30日現在
秋山初雄 濱川次男
瀬間賢一 矢口麻美
安藤富子 飯島章徳
森直人 石井傳二
大塚温 久松貞子
小内国靖 吉野幸男
原田はるみ 鈴木綱子
長谷川富治 杉田敏夫
萩原袈裟男 金島美佐江
山中守 島田綾子
早藤禎二 戸谷やよい
佐藤光雄 若井正弘
長谷川高雄 新井玉枝
大塚通 根岸由美子
小林喜久江 太田典子
鹿沼照代 海野富男
太田千代子 二階堂清江
石川豊二 脇節子
澤田栄二 加治修一
山下武昭 穴吹和美
奥山つや子 青柳聖紀
利根川菊枝 吉岡信雄
小林富士男 田嶋淳子
亀山昭一 飯田力
新井一江 高橋自動車整備工場
シマムラ電機
宮浦きよ子 萩原正憲
中紀江 大澤司
福田康史 小林一紀
小林都 松葉正枝
笹間慶紀 松本キクノ
浦野文子 齊藤千穂

新施設建設のために大切に使用します。
心より感謝を申し上げます。

心より感謝を申し上げます。

春日園配属



高原優佳 職員
1日でも早く利用者皆さんのお役に立てよう、精一杯頑張りたいと思います。

深谷たんぼぼ配属



田嶋崇江 職員
利用者の皆さんに毎日笑顔で安心して生活して頂けるように頑張ります。

新職員紹介
4月1日より、本法人に2名の職員が加わりました。3ヶ月間、研修を行い、7月1日に配属先が決定したばかりです。
皆様、よろしくお願い致します。

新施設建設のための
土地1坪運動寄付
ご報告です。
5,334,639円
(平成27年6月30日現在)

研修フォトギャラリー



新人研修「虐待に対する勉強会」
(H27.6.22撮影)



「利用者の立場に立った支援を目指して」お互いに歯磨き支援を体験する職員研修。



職員のメンタルヘルス研修。
(H27.3.6撮影)

第31回

法人レクリエーション大会
実行委員長 第2春日園 小林一紀

5月30日、深谷ビッグタートルで法人レクリエーション大会が開催されました。今年度の大会は新しいものと伝統的なものを融合させようということ、4競技中3競技を新しいものにしました。新競技はチーム全員で完成させるビッグパズル、チームワークが大切な綱引き、そして職員リレーの3種です。もう一つは、毎年人気が高く歴史のあるパン食い競争でした。綱引きでは、声を掛け合いチーム一丸となつて綱を引く、皆さんの真剣な姿が印象的でした。また、職員リレーのアンカーである各事業所施設長の仮装姿にも、会場内から大きな反響がありました。年に1度の法人レクリエーション大会ですが、法人内の利用者の皆さんが、楽しみながら競技に取り組み様子は本当に素晴らしいものだと改めて感じました。参加してくださった利用者の皆様、ご来賓並びに保護者の皆様、深谷ビッグタートルの皆様、本当にありがとうございました。



平成26年度事業報告について

社会福祉法人埼玉のぞみの園 理事長 山崎 勝



山崎理事長
(H27.6.26撮影)

先日、新任職員研修の座学において本法人の歴史や課題をお話しする機会を頂いた。改めて過去を振り返ったり、課題を精査することは日々の仕事に振り回されている自分にとって、また基本に戻れる機会を与えてくれる事となり有り難い事でもあります。さて、その様なことから現状を各人把握しておいて頂かないといけないと思ひ、事業報告から気になる点を幾つか概要説明をしたいと思ひます。

一、職員の定着率について

事業の基本は職員であると思うのです。正規職員は凡そ65名程在籍しておりますが、昨年度は1名の退職者しか出ませんでした。それも遠方に嫁ぐとのことで致し方ない事でした。特にこの五年程、新卒者の退職者は一件もなく非常に嬉しい事であり、他法人からは羨望の気持ちに向けられております。またこの事は、正規職員に限らずパート職員にも言え、比較的定着率が良いようなのです。

嘗て中村前理事長は「良い利用者を作るには良い職員を作らなければならない」とおっしゃっていました。確かに職員の定

二、利用率について

施設運営費はそのまま利用率に左右されます。利用率は全実利用日数を（月日数マインス8日×定員）で除します。100%を目指していきたいのですが、通所の場合かなりの開きがあります。深谷たんぼぼが凡そ92.6%と断トツの利用率ですが、つくし作業所では71.1%と大きな隔たりがあります。

現在は通所若しくは入所により多少違いがありますが、定数を超えて利用できる定員緩和があり、通所に於いては125%まで良いとされています。三障害一元化により色々な方たちが利用されるようになり、通所していただく事の難しさを感じています。

三、授産の頑張り

国の示す工賃向上計画により、日本中の就労継続支援B型の施設は、利用者工賃を上げるべく努力を重ねています。当法人施設に於いても、元は授産施設ということで、働くことについては一方ならぬ努力をしているところではあります。平成25年との比較では12%増の79,520千円の売上となり、法人始まって以来の授産売り上げを記録しました。これは各施設での販売や職場開拓が身になりつつあると共に、「仕事は人生の基本である」を合言葉に障害が

重かろうと能力に応じ、何等かの仕事を提供していきたいし、やれる方には更なるアップを求めていきたいと願ひ実行している由縁ではないだろうか。

書いた事は山程あるにしても、字数制限で紹介出来ないもどかしさをご了承ください。

埼玉のぞみの園 事業報告

検索

事業報告はこちらから

妻沼つくし作業所

道ヶ谷戸愛児園さんと
新じゃが掘りをしました

6月15日、近隣の保育園・道ヶ谷戸愛児園の皆さんと一緒に「新じゃが」のお芋掘りを行いました。園児さん20名と先生3名、作業所からは利用者11名と職員5名の総勢40名でワイワイ楽しみました。子供達の、目をキラキラさせながら、一生懸命に土を掘り返して新じゃがを収穫する、嬉しそうな表情を見ると、企画してよかったなとこちらも嬉しくなりました。



妻沼つくし作業所
問合せ先048-588-6890

のぞみ深谷営業所

小学部で遠足へいきました

6月13日、小学部の児童8名と職員6名で東松山市にある埼玉県こども動物自然公園に行きました。ふれあいコーナーでは、うさぎやモルモットに触れたり、生まれたばかりのキリンの赤ちゃんを見てきました。動物におつかいなビックリの、普段とは違う子供達のいきいきとした姿が見られ、楽しく充実した遠足となりました。



動物との触れ合いも、いい経験になりました。また行こうね！

のぞみ深谷営業所
問合せ先048-577-5318

第2春日園

バンド活動 始動

第2春日園では、毎週水曜日「絵画造形」「映画「お茶会」「スポーツ」そして「バンド」の五つのグループに分かれ、趣味の世界を広げています。



専門の技術を持ったボランティアにご指導いただいてリズム練習。夢は…ステージ演奏です♪

第2春日園
問合せ先048-583-5451